

東遊園地における社会実験 「URBAN PICNIC」による利用行動の変化について

嶽山洋志¹⁾, 村上豪英²⁾

Changes in usage behavior by the pilot project named "URBAN PICNIC" in Higashi-Yuenchi

Hiroshi TAKEYAMA¹⁾, Takehide MURAKAMI²⁾

【Abstract】

20 years passed from the Great Hanshin-Awaji Earthquake in Kobe city, the local government developed a vision for the future to redesign of the city function in March, 2015. In this plan, it is described that the Higashi-Yuenchi becomes the lawn grass, and the citizens who work and play with a family in the park. Therefore, the purpose of this study was to clarify the changes in usage behavior by the pilot project named "URBAN PICNIC" that we changed the ground to lawn grass and installed a library and a cafe as a device to promote a stay action temporarily. As a result, it was clarified that the residence time increased to approximately 2 times when it covered with turf. And also many infants and small dogs were playing on the grass, and the users who looked at it again were seen a lot.

Key words: Higashi-Yuenchi, URBAN PICNIC, pilot project, usage behavior

1. はじめに

阪神淡路大震災から20年が経過した神戸市は、都市機能の更新を図るため、2015年3月に「神戸の都心の未来の姿」将来ビジョンを策定した（神戸市、2015）。その内容は快適で魅力・活力あふれるまちを目指すもので、主に神戸の玄関口である三宮地区の再整備計画について検討がなされている。特に東遊園地は三ノ宮駅に近く、旧居留地やウォーターフロントなどの観光地をつなぐ動線上に位置していることから、それらを結ぶ人の流れを生み出す重要な場として捉えられている。また整備計画ではグラウンドの芝生化が検討され、仕事をしたり家族や仲間と遊んだりするなど来園者が自由に楽しみ交流できる場となるビジョンが想定されている。そのような多様な利用形態の推進可能性を検証すべく、2015年6月1日～14日の期間に後述する社会実験「URBAN PICNIC」が開催された。筆者らは本事業の効果や意義を利用者の視点から検証したので本紙にて報告する。



図 -1 URBAN PICNIC の実施場所と調査地点



写真 -1 URBAN PICNIC の様子

1) 兵庫県立淡路景観園芸学校 / 兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科

2) 神戸モトマチ大学

2. 研究方法

2.1 東遊園地のURBAN PICNICについて

本事業の正式名称は、東遊園地パークマネジメント社会実験であり、実施主体は「神戸パークマネジメント社会実験実行委員会」である。コンセプトを「東遊園地を、特別なイベントの時だけでなく、市民が日常的に豊かな時間を過ごす場にする」とし、アウトドアリビングの実現を目標としている。

事業の内容はまず園内の北エリアの広場を芝生化（面積約100㎡）するとともに、それに隣接する位置にカフェを設置、自由に利用できるパラソルやテーブル、椅子が周囲に設置された。また市民の日常的な利用促進のため、自由に本を閲覧できる「アウトドアライブラリー」も実施された（写真-1参照）。

2.2 調査方法

「URBAN PICNIC」による利用行動の変化を捉えるべく、社会実験期間中の6月7日（日）と10日（水）、期間外の25日（木）と28日（日）に定点観測調査を図-1に示す敷地がすべて見渡せる地点から実施した。本調査は9時～20時まで1時間おきに視認できたすべての来園者の動線と行動内容、時間（滞留していた場合のみ）を属性情報（性別と人数）とともに地図に記録、1日あたり6時間の来園者情報を得た。分析では行動を通過行動と滞留行動に整理、通過行動はそのルートと人数とともに示し、その間にとった行動は位置と内容を示すこととした。滞留行動はその位置と内容を地図に示し、15分未満、15分以上30分未満、30分以上45分未満、45分以上1時間の4段階で整理して示すこととした。

また同時に来園者へのアンケートも実施、調査者が図-1に示すルートを歩きながら出会った来園者にアンケート用紙を配布、10分後に回収するという方法をとった。属性情報に加え、環境整備やソフト事業などのニーズを尋ねた。そしてそれらの結果をもとに期間中と期間外との利用行動の違いについて比較考察を行った。なおアンケートの有効回答数は期間中が85名、期間外が65名で、対象者の属性は図-2～5の通り、調査は毎回2名（利用行動調査1名、アンケート1名）で行った。

3. 結果および考察

3.1 利用者の行動特性

図-6に通過行動の比較を、図-7に滞留行動の比較を示す。なお本図には移動行動から滞留行動に移った行動（例えば移動中、本棚に興味を示し、そのまま階段で本を読むなどの行動）は含んでいない。

図-6よりURBAN PICNIC期間中である6月7日、10日は芝生や本棚に寄り道をしながら移動している（例えば本をみたり、芝生に入って遊んだりなど）のに対し、期間外である6月25日、30日はそういう行動はほとんど見られないことがわかる。また芝がはられていない時（期間外）の動線は直線で最短距離を歩いているのに対し、芝がはられている時（期間中）の動線は芝生を避けるように歩いていることがわかった。

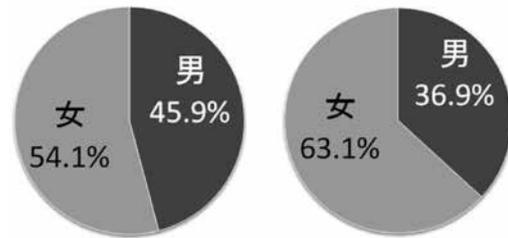


図-2 男女比（左：期間中、右：期間外）

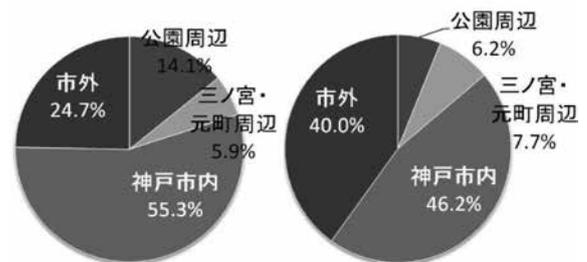


図-3 居住地（左：期間中、右：期間外）

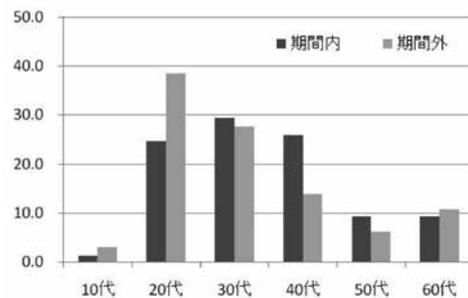


図-4 年齢比

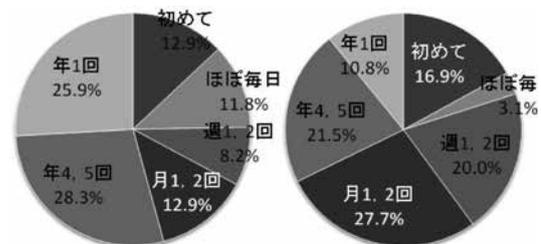
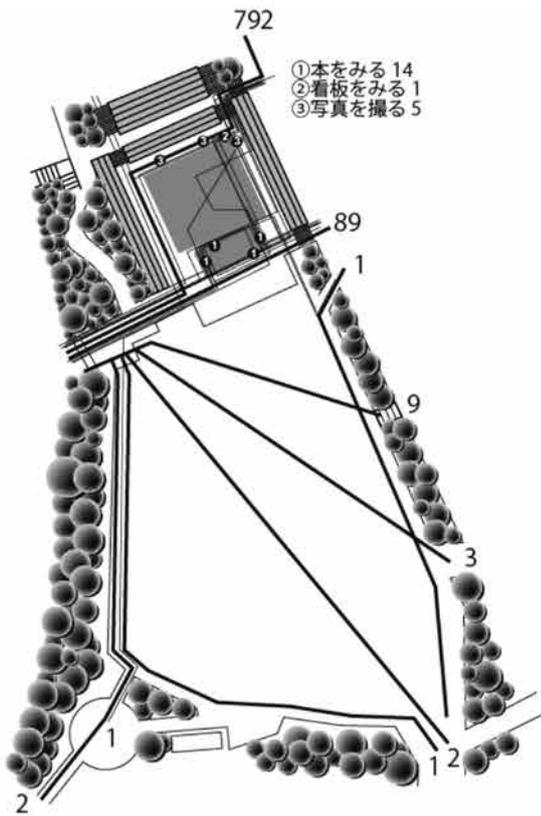
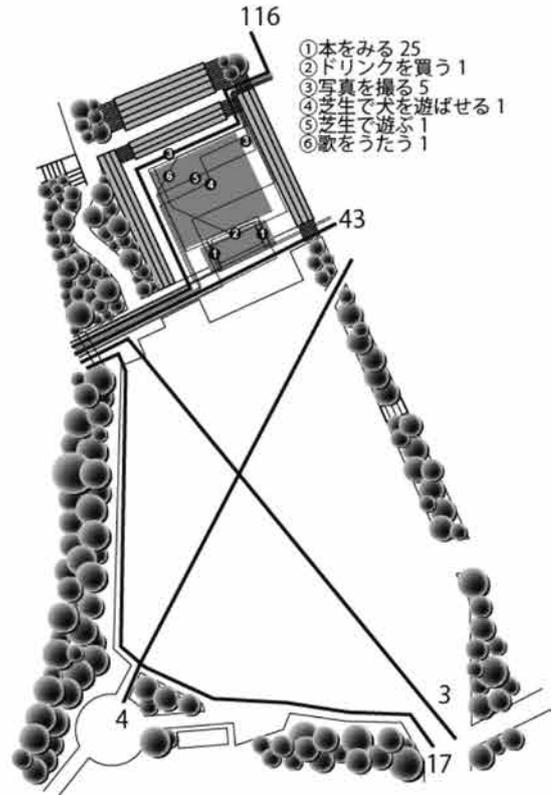


図-5 来訪頻度（左：期間中、右：期間外）

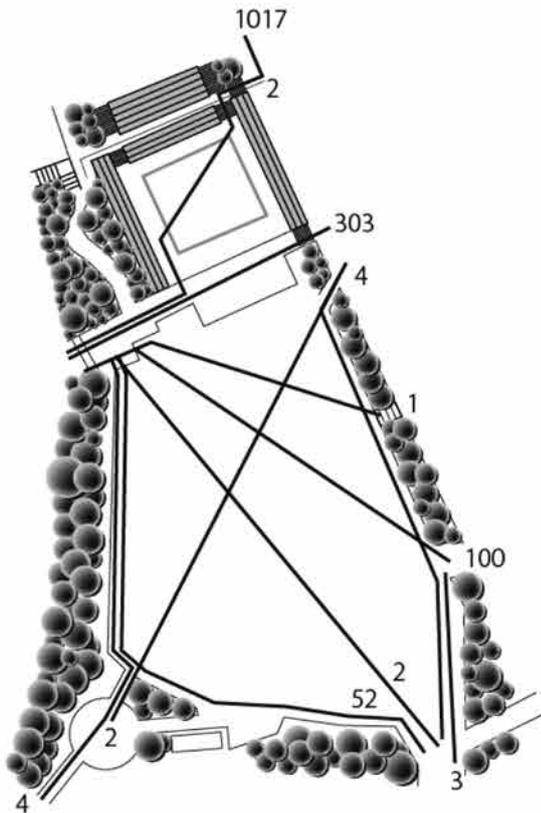
当初、通勤等の通過行動の踏圧による芝生へのダメージをプロジェクト実施者は危惧したがその影響はほとんどないことがわかる。



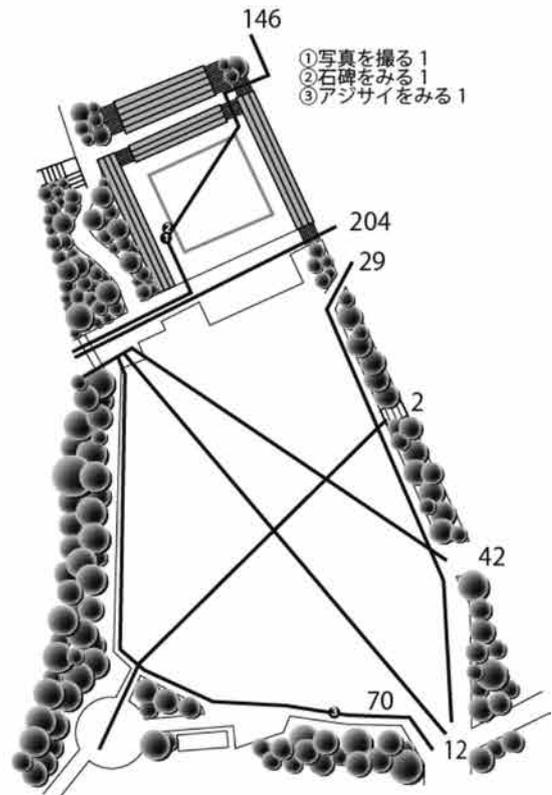
6月10日(水)



6月7日(日)



6月25日(木)



6月28日(日)

図-6 通過行動の比較 (グレーで示した部分に芝生およびカフェ・アウトドアライブラリーが設置)

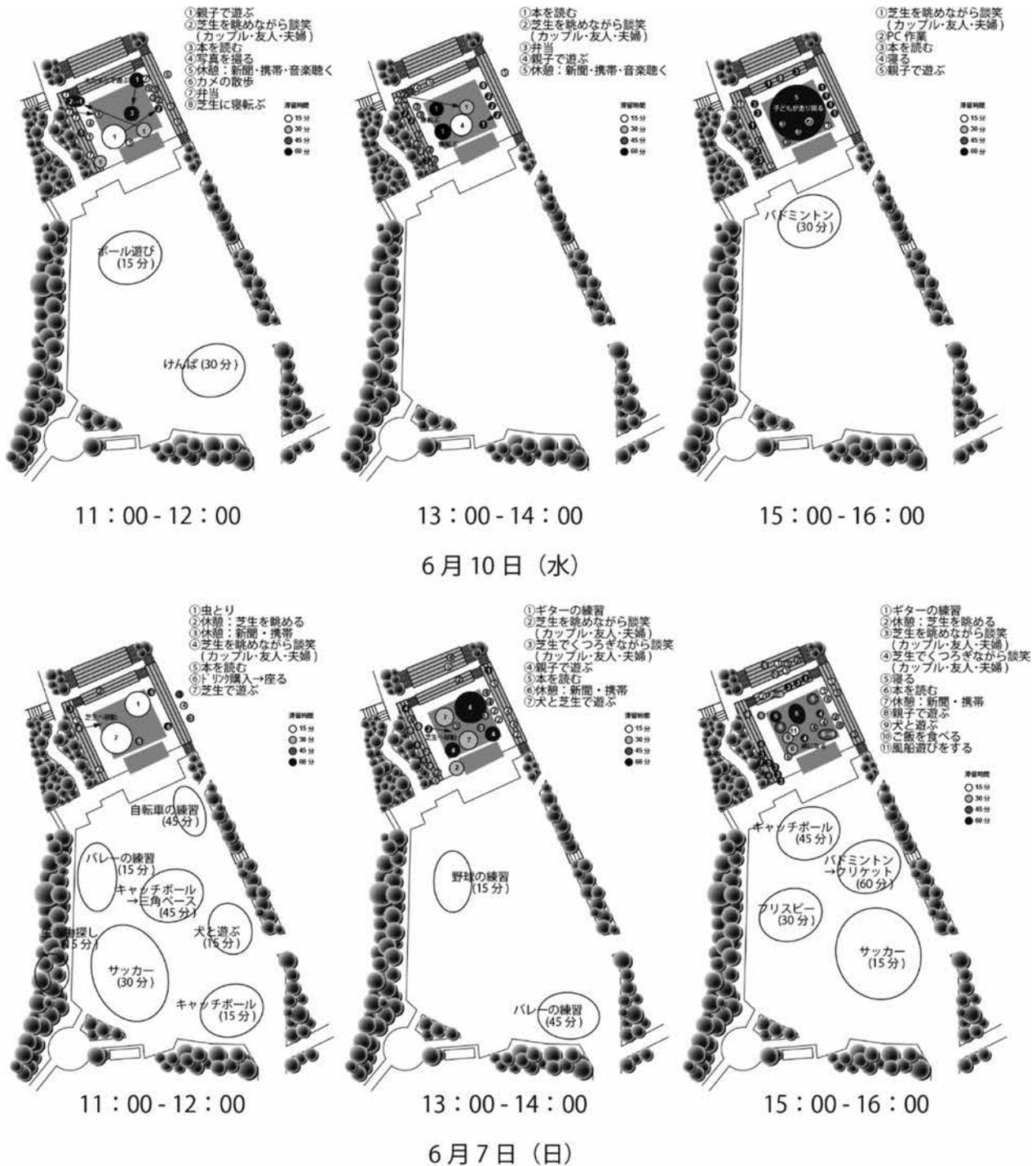


図-7-1 滞留行動 (期間中) の比較 (グレーで示した部分に芝生およびカフェ・アウトドアライブラリーが設置)

図-7に滞留行動の比較を示す。なおここでは9時から20時までのデータの中で、昼間の3データ(11:00-12:00, 13:00-14:00, 15:00-16:00)を対象に比較考察を、また1時間おきの調査であったことから最大滞留時間は1時間として分析を行った。

結果、滞留行動をとった利用者は期間中が146名、期間外が76名とおよそ2倍の利用者があった。また滞留時間は期間中が1グループあたり37.2分(146名で5,430時間)、期間外が23.9分(76名で1,815時間)と期間中の

方が長くなった。その理由として「本棚の設置」「コーヒーや軽食などの販売」「日陰の存在(パラソル)」といったURBAN PICNICの仕掛けが効いているとともに、芝生での遊びで特に「幼児」や「小型犬」を遊ばせている様子、「親子で相撲をとる」など親子で一緒に遊んでいる様子などを眺める利用者が周囲の階段ベンチにいて、その利用者が滞留時間を引き延ばしていると考えられる。芝生が中央にあることで、周囲の階段ベンチと「見る-見られる」の関係が出来ていたかと思われる。

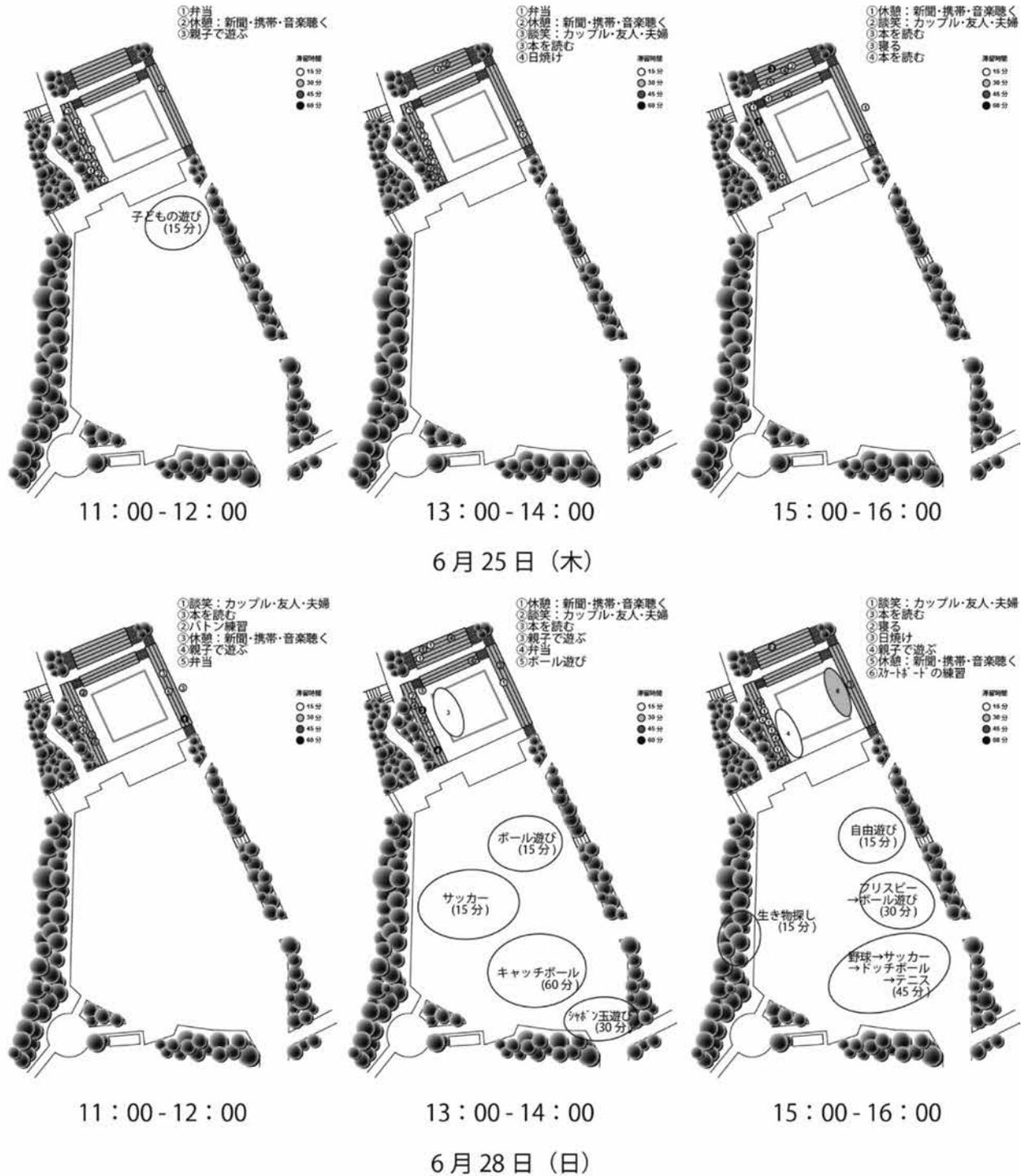


図-7-2 滞留行動(期間外)の比較

また、「芝生で寝転ぶ」「虫とりをする」「はだして芝生に上がる」など、都市の中の自然を体験する貴重な空間になっていたことが伺える。アンケートの自由意見からも「周辺の電気をすべて消して夜空を眺めたい、都会での開催は難しいからこそ実現させてみたい。普段は見られない数の星が見れたらいいと思う」など都会の中での自然体験を求める意見も確認でき、さらに芝生に寝転んだ利用者との会話では「三ノ宮で空を見上げたことがなかった」と言っていた

方がいたことなどからもその意義が伺える。

一方、南エリアのグラウンドは、期間中および期間外に関わらず「キャッチボール」「サッカー」など、スポーツが特に休日に行われており、動的な活動の場・親子などの交流の場として意義ある場となっていることがわかった。

3.2 アンケート結果からみた利用者ニーズ

表-1にプロジェクトで整備したものを踏まえてさらなる条

件整備利用者が求める環境整備の内容を、表-2に利用者が求めるソフト事業の内容を、表-3に東遊園地で行われているプロジェクトの印象を示す。なお以上の問いは本プロジェクトで実施した取り組みを踏まえ、さらなる要件として求めるものとした。

まず、利用者が求める環境整備の内容について、表-1に示すとおり“公園の芝生化(13名)”と“こどもの遊び場(10名)”を期待していることが伺える。特に子育て世代が多く訪れていることに留意する必要がある、「授乳室があれば赤ちゃん連れも来訪しやすい」とあるように、乳幼児連れの家族も楽しめるような環境整備やソフト事業の工夫を検討することも必要であろう。“木陰や屋根のある場所(9名)”と“ベンチの設置(7名)”は、南エリアの広場には周囲に緑地とベンチが設置されているが、北エリアは日陰のない階段デッキとなっていることから、より充実が求められる。

イベント等のソフト事業については、表-2に示すと

おり“食や農のイベントや場づくり(23名)”と“音楽イベント(16名)”が求められていることがわかる。音楽イベントでは「賑やか過ぎない音楽」「激しく込み合わない程度」「ジャズなどの音楽イベント」「神戸に根付く人」など質への言及が多く、神戸らしい音楽シーンを創造していくことが求められる。食イベントも「社会派マーケット」「手作り市」など、温かみがありコンセプトを持った企画が求められる。また“自然を体感できるイベント”も3名からの指摘ではあるが、都心の中にある都市公園として実施が期待される事業である。

最後に表-3にURBAN PICNIC等、東遊園地で行われていること最近のプロジェクトの印象について、17名の方々から以下の自由意見を得た。まず「これまで広いけれども利用の仕方がわからなかった、というか、特に用事がなかったのですが、最近はわざわざ行ってみたい、というイベントがいくつもされていて、大好きな場所になりました。海外の公園のようなおしゃれなイメージにかわりました」「先日ホワイトをテーマカラーにしたディナーイベントをしている時に、たまたま通りかかり、その一帯のオシャレ感がすごいと感じました。三ノ宮から近い都会のスペースで神戸らしいおしゃれなイベントが増えたら素敵だと思います」など、東遊園地の印象がここ数年で変化してきている

表-1 利用者が求める環境整備の内容

芝生の整備【13】
芝生の整備(3)、グランド部分が芝生になればいいと思う、みなとのもり公園のように、芝生があると小さい子が遊びやすい、芝生ものびのび出来ていい、昼寝ができるような常設で芝生のエリアが欲しい、砂のグランドではなく一面芝生の公園にして欲しい、広場を大切にしたい(みどりの広場に!)、グランドの芝生化、全面芝生化がいい、広場に芝生を植えてほしい、芝生 or 白いパラソルがついた机と椅子などがあるといい

こどもの遊び場、乳幼児の施設【10】

子どもが遊べる遊具を設置して欲しい、バスケットボールコート、札幌の大通り公園にあるような水遊びスペース、遊具があれば子どもが楽しいと思う、遊具もあると子どもには嬉しい、幼児向けのブランコなどの遊具、子どもが遊べる簡単な遊具があると良い、子どもの遊具の設置、子どもたちが遊べる場が欲しい、遊具やブランコや授乳室の施設があれば赤ちゃん連れも来訪しやすい

木陰や屋根の整備【9】

屋根が欲しい(3)、木陰が欲しい(2)、もう少し日影があると嬉しい、木々を増やしてほしい、日よけのテントなども持ち込めたら助かる、日陰で休憩できる場所があると良い

トイレの整備【7】

清潔なトイレ(4)、明るくて安全なトイレ(2)、流れのゴミを定期的きれいに掃除してほしい、トイレの整備、ゴミ箱があればよい

ベンチの設置【7】

ベンチをもっと多く置いてほしい(6)、座れる場所がほしい

表-2 利用者が求めるソフト事業の内容

食や農のイベントや場づくり【23】

カフェがあると嬉しい(4)、軽く飲食できる場が欲しい(2)、手作り市のようなイベント(2)、地産地消のフードコーナー、グリーンマーケット、キャンドルカフェ、飲食の露店をもっと出して欲しい、常設のカフェを作って欲しい、今日のようなカフェがいい、無料のビアガーデンを開いて欲しい、特に建物なくても移動販売のコーヒーなど、人気パンの販売とか、屋台の食べ物が食べられるイベント、ラーメン屋台、神戸のパン屋さん集合(カフェ付)、グルメ展など食のイベント(ラーメンとか)、兵庫県のファーマーズマーケットやオーガニック、フェアトレード等のコンセプトの社会派マーケット、フリーマーケット

音楽イベントの開催【16】

コンサート等の音楽イベント(5)、音楽が欲しい(2)、休日に昼食で利用しているので賑やか過ぎない音楽イベントがあると嬉しい、ストリート演奏もあればよい(静かな感じの)、ROCK FES、ジャズライブ、フェス、激しく混み合わない程度のナチュラルなイベント、ライブ(音楽や演劇)、昼食後に勉強しているのでジャズなどの音楽を流してほしい、EAT ROCK KOBEとか神戸に根付く人や関わる人が集う空間にしてほしい

子どもイベント【5】

子どもが遊べるイベントなどもあればうれしいです、子ども向けのイベント、子どもが遊べるようなイベント、子ども向けイベント、子どもが集まって遊べるイベント、

自然を体感できるイベント【3】

都会の中で自然を感じられるようなイベントが嬉しい、鳥の展覧会など自然をモチーフにしたイベント、周辺の電気をすべて消して夜空を眺めたい。都会での開催は難しいからこそ実現させてみたい。普段は見られない数の星が見れたらいい

その他のイベント等のソフト事業について【7】

ホワイトパーティをもう一度してほしい(2)、AC シム氏の碑やモーツァルトの像や服飾(テーラー)のモニュメントなどをせっかく設けているので毎月定期的に例えば第一日曜日〇〇祭のような形でイベントを行ってはどうか、グラウンドがもっと利用されるといいと思う、舞台劇や能など、お祭りをふやす、ドッグランや犬のイベントが欲しい

表-3 東遊園地で行われているプロジェクトの印象

「これまで広いけれども利用の仕方がわからなかった、特に用事がなかったが、最近ではわざわざ行ってみたいというイベントがいくつもされていて、大好きな場所になった。海外の公園のようなおしゃれなイメージに変わった」「季節がちょうどよいこともあってのんびり楽しい時間を過ごせた。東遊園地は静かなことがいい」「先日ホワイトをテーマカラーにしたディナーイベントをしている時に、たまたま通りかかり、その一帯のオシャレ感がすごいと感じた。三ノ宮から近い都会のスペースで神戸らしいおしゃれなイベントが増えたら素敵だと思う」「都会でピクニックできるのが素敵。1人だけでなく時間を共有できるのがいい」「こういうのいいと思う」「十分満足している」「今日のようなリラックスしているイベントが好き」「この試みとってもナイス。みなとのもり公園でもこんなことやりたい」「ゆっくりくつろげるスペースがあれば十分」「静かにゆっくりできる空間であるため、それを生かしながら施設やイベントを考えていってもらえると嬉しい」「朝から飲めるイベントが素敵」「今日のような長期のイベントが欲しい」「アーバンピクニックの継続」「アウトドアライブラリーの常設」「アウトドアライブラリーのおかげで数年ぶりに来た。このような展示は今後もみたい」「本棚ずっと続けてほしい」「本棚も常設になるとすごく良いと思う」

ことを評価する指摘が確認できた。また「都会でピクニックできるのが素敵でした。1人だけでなく時間を共有できるのがいいですね」など、本事業のコンセプトを評価する指摘も確認できた。アーバンピクニックやアウトドアライブラリーの継続が求められていることから、本事業を継続するための体制づくりが課題だろう。

4. おわりに

以上のことから本調査では以下の2点を検証結果として報告する。まず1点目として、URBAN PICNICにより滞留行動をとった利用者数は平時の2倍になり、多くの利用が生まれる事業であることが確認できた。また利用者の滞留時間がこれまでと比して伸びることがわかったが、その要因として本社会実験そのものの仕掛けに加え、芝生化により幼児や小型犬が走り回る風景が生み出され、それを眺める利用者が周囲に多く生れたことが挙げられる。2点目としては、URBAN PICNICにより利用者が裸足で芝生にあがったり寝転んだりするなど、都市の中の自然のリビング、自然

を体感できる貴重な都市空間として機能していたことがわかった。さらなるニーズとしては、音楽のある環境づくりや、食や農のイベントの実施など、より環境の質を高める事業が期待される。本事業を継続する声が多いことから、そのための体制づくりが課題となるだろう。

引用文献

神戸市住宅都市局計画部計画課(2015)神戸の都心の未来の姿(将来ビジョン)。神戸市, p50.